

# 百周年を迎えて

1905年(明治38年)創立の愛知淑徳学園は、昨年100周年を迎えました。昭和36年、本学園は愛知淑徳短期大学を開学。家政科に続いて、39年に国文科、40年に英文科設置と、3学科を備える短期大学へと発展していきます。卒業生に学園での思い出を語っていただくシリーズの第9回は、英文科第1期生の渡邊順子さん(旧姓：新美)に登場していただきました。

## あの分厚い「風と共に去りぬ」を 在学中に原語で読みました。



愛知淑徳短期大学英文科第1回卒業生  
(昭和41年度卒業)

渡邊 順子さん(旧姓：新美)

昭和22年生まれ。現在59歳。愛知淑徳短期大学卒業後、24歳で結婚。地元の阿久比町で青少年健全育成の地区推進員を15年務めるほか、愛知県の国際交流女性海外派遣団の一員としてタイ、インドネシアに赴いたり、「愛知県地域婦人問題開発研究会」を修了するなど、国際交流や女性問題など幅広い地域貢献活動を行っている。10年前から太極拳を始め、現在は準師範として、ほぼ毎日指導に当たる。これまで中国を5回訪れ、太極拳を通じて現地の人との交流に努めている。



仲のよかった友人たちと。  
左から2人目が渡邊さん



卒業式のあとの謝恩会。名古屋観光ホテルのロビーにて

それに「老人と海」や「ロミオとジュリエット」を原語で読んだんですよ。英文科は日とGの2クラスで各60人、私はGクラスで担任は英文学の小野迪雄先生でした。先生は若くてエネルギッシュで、よくクラスをまとめてくださいましたね。

名古屋大学から教えに来ていらした先生が多く、先生方の名簿を見た知人が「すごい」と驚いていたのを覚えています。私たちは英文科1期生ということもあり、学園も力を入れていたと思います。

英会話の授業では、大学から大きなオープンリールのテープレコーダーを一人一台ずつ買わされて、L1教室で録音したのを毎日持って帰り、自宅でヒアリングの復習をしていました。地下鉄が一回乗車20円、学食のおうどんが40円の時代に、テープレコーダーは2〜3万円もしました。ピンク色で可愛かったのですが、とにかく重くて満員電車で持っているとガラスを割りそうでした。

淑徳は短大では珍しく卒論がありました。当時は短大専用の図書館がなく高校と兼用で、蔵書も少なかったので、学校帰りや日曜に鶴舞中央図書館へ通って書き上げました。その頃、愛知県立図書館はまだありませんでした。卒論に加えて、2年次には教育実習へも行きました。教育実習は希望者だけですが、英文科のほとんど全員が参加したと思います。私は母校の公立中学校で教えました。

部活は社交ダンス部で毎週土曜が練習日でした。白いドレスをいっと縫ってもらい、南山大学のバートナーと東海学生舞踊選手権でワルツを踊りました。残念ながら入賞は逃しましたが…。学園祭で、体育館で開かれたダンスパーティーで、真暗な中、ミラーボールの下で踊ったこともあります。

テニス部にも一時期入っていました。英作(英文作法)の守田俊三先生が顧問をしていらしたのですが、授業で先生にほめていただき、英作が大好きになったのです。アメリカとデンマークの女子学生と英語で文通もしていました。

淑徳での2年間で、広く社会を見る力が養われたと思います。家庭を持ち、子育てをする中で、大いに役立つと実感しています。(談)

高校生の時、父から、「これから国際化の時代だから英語を学びなさい」と英文科をすすめられて淑徳短大を受験しました。当時は女性は高校だけで十分という時代で、花嫁修業で家政科へ進む人はいましたが、英文科というのとはとても珍しがられました。英文科を持つ短大も、名古屋では淑徳と金城くらいでした。

入学試験はそれほど難しかったという記憶はないのですが、入学してからが大変でした。授業は毎日4時間目までびっしりあり、教科書は難しく、どの科目も予習をしないと授業についていけないほどでした。2年間であの分厚い「風と共に去りぬ」、それに「老人と海」や「ロミオとジュリエット」を原語で読んだんですよ。

英文科は日とGの2クラスで各60人、私はGクラスで担任は英文学の小野迪雄先生でした。先生は若くてエネルギッシュで、よくクラスをまとめてくださいましたね。

名古屋大学から教えに来ていらした先生が多く、先生方の名簿を見た知人が「すごい」と驚いていたのを覚えています。私たちは英文科1期生ということもあり、学園も力を入れていたと思います。

英会話の授業では、大学から大きなオープンリールのテープレコーダーを一人一台ずつ買わされて、L1教室で録音したのを毎日持って帰り、自宅でヒアリングの復習をしていました。地下鉄が一回乗車20円、学食のおうどんが40円の時代に、テープレコーダーは2〜3万円もしました。ピンク色で可愛かったのですが、とにかく重くて満員電車で持っているとガラスを割りそうでした。

淑徳は短大では珍しく卒論がありました。当時は短大専用の図書館がなく高校と兼用で、蔵書も少なかったので、学校帰りや日曜に鶴舞中央図書館へ通って書き上げました。その頃、愛知県立図書館はまだありませんでした。卒論に加えて、2年次には教育実習へも行きました。教育実習は希望者だけですが、英文科のほとんど全員が参加したと思います。私は母校の公立中学校で教えました。

部活は社交ダンス部で毎週土曜が練習日でした。白いドレスをいっと縫ってもらい、南山大学のバートナーと東海学生舞踊選手権でワルツを踊りました。残念ながら入賞は逃しましたが…。学園祭で、体育館で開かれたダンスパーティーで、真暗な中、ミラーボールの下で踊ったこともあります。

テニス部にも一時期入っていました。英作(英文作法)の守田俊三先生が顧問をしていらしたのですが、授業で先生にほめていただき、英作が大好きになったのです。アメリカとデンマークの女子学生と英語で文通もしていました。

淑徳での2年間で、広く社会を見る力が養われたと思います。家庭を持ち、子育てをする中で、大いに役立つと実感しています。(談)



太極拳はいろいろな教室で教えるほか、特別養護老人ホームなどではボランティアで指導。写真は小学校の「親子ふれあい活動」でのボランティア風景。中央が渡邊さん